

熱海のヒラメ放流と西伊豆のカサゴ放流

熱海市では、令和元年5月10日に曾我浦沖、5月14日に伊豆山沖で、大熱海漁協がヒラメ稚魚の放流を行いました。放流したヒラメ稚魚は、御前崎市の静岡県温水利用研究センターで生産した平均全長44mmの種苗10,000尾を、平成31年4月18日から、大熱海漁協近くに設置した陸上水槽で中間育成してきたものです。放流時のヒラメ稚魚の平均全長は67mm、放流尾数は曾我浦・伊豆山合わせて6,350尾でした。放流に際しては、曾我浦では熱海市立第二小学校、伊豆山では熱海市立伊豆山小学校の5年生が参加しました。大熱海漁協では、海の資源を守ることの大切さを地域の子供達に学んでもらうため、毎年、両校の児童の参加を得ています。熱海市立第二小学校の児童達には、当场からヒラメの生態や漁業などについて説明し、児童達からはヒラメの食べ物、成長などの質問をもらいました。また、大熱海漁協は上多賀においてもヒラメ稚魚5,000尾を中間育成し、平成31年6月19日に平均全長116mmに育ったものを放流しました。

西伊豆町では令和元年5月17日に、田子、安良里、仁科の各港の沖合から、カサゴ稚魚9,600尾、ヒラメ稚魚200尾、メバル稚魚200尾を放流しました。この取組みは西伊豆町の民間企業が水産資源の確保と地域貢献を目的に、伊豆漁協田子支所の協力を得て行われているものです。放流した稚魚は愛知県の民間種苗生産会社から購入した種苗で、放流時の平均全長は121mmでした。また、稚魚の一部は西伊豆町内の伊豆海認定こども園と仁科認定こども園の5歳児によって、同日、大田子海岸からも放流されました。その際も当场から、園児達にカサゴの生態などについて説明しました。



児童達がヒラメ稚魚を放流
(曾我浦沖)



園児たちがカサゴ稚魚などを放流
(大田子海岸)
(永倉靖大)